

## 計画06各部設計

- 1  突出し窓は、縦長の開口部に適しており、オペレーターを用いて、排煙窓として使用されることが多いが、気密性・水密性に劣る。
- 2  屋内の公式試合用のテニスコートの中央部分の天井高を、8mとした。
- 3  コミュニティ施設の階段において、視覚障害者に配慮し、階段の手前30cm程度の床上に点状ブロックを敷設した。
- 4  各階の階高が異なる場合でも、避難階段の蹴上げと踏面の寸法が各階でほぼ同じになるように計画した。
- 5  成人用バスケットボールのコートを2面配置する体育館の床面の内法寸法を、30×35mとした。
- 6  はめ殺し窓は、主に採光等を目的とし、気密性・水密性に優れているが、室内からのガラス外面の清掃が難しい。
- 7  事務所ビルにおいて、事務室に設置するパーティションの高さを、いすに座った状態における見通しを遮るために110cmとした。
- 8  陸上競技場の芝生席の斜面の勾配を、安定して座ることができるように1/6以下とした。
- 9  岩綿吸音板を用いる天井の場合、システム天井工法と捨て張り工法とを比較すると、遮音性能については、システム天上工法の方が優れている。
- 10  特別避難階段の附室において、避難者の滞留を最小限にするため、廊下から附室への入口と、附室から階段室への出口とを、隣接させた。
- 11  事務所ビルの階段室において、壁の周囲に取り付ける手すりの高さを段の先端から測って110cmとした。
- 12  公共図書館における図書の貸出用のカウンターの床面からの高さは、子どもや車いす使用者に配慮して、70cmとした。
- 13  耐熱強化ガラスは、耐熱性能が高いが、一般に、防火戸に用いることはできない。
- 14  病院の病室の出入口の幅は、ベッドの円滑な移動を考慮して110cmとした。
- 15  百貨店の化粧室において、洗面台の高さを80cmとした。
- 16  免震建築物の可動範囲には、移動可能なものであれば、置くことができる。
- 17  免震層の直上階に着床するエレベーターの配置については、そのピットが、免震装置の基礎に近接しないように注意する。
- 18  病院において、病室の出入口の有効幅を120cmとした。
- 19  カーテンウォールのオープンジョイントとは、雨仕切、等圧用開口及び気密線を組み合わせることにより雨水の侵入を防止する方式のことである。
- 20  屋内スポーツ施設の天井の高さを、バレーボールの試合を行えるように6mとした。
- 21  横滑り出し窓は、常時は、少し開けて換気用として使うが、窓の清掃時には、大きく開けたり、反転させたりすることができる。
- 22  事務所ビルの1階玄関ホールにおいて、受付カウンターの高さを120cmとした。
- 23  シティホテルのフロントカウンターの高さについては、一般用を85cm、車いす使用者用を75cmとした。
- 24  美術館の常設展示室において、最も大きな絵画が縦2m×横3mであったので、展示壁面の前に絵画の画面の対角線の1.5倍である5.4mのスペースを確保した。
- 25  車路の両側に普通乗用車を駐車させる駐車場において、車路の幅を狭くするため、60° 駐車ではなく、直角駐車とした。
- 26  6人制バレーボールの公式試合を行うコートを2面配置するために、体育館の床面の内法寸法を24m×24mとした。
- 27  地下に駐車場を設ける場合の大規模店舗の柱スパンは、柱間に自動車と並列に3台駐車できるように、8.5mとした。
- 28  高層建築物の外壁に使用されるカーテンウォールには、建築物の軽量化、工場生産による品質の安定化、自由なファサードの形成等の利点がある。
- 29  木造軸組構法において大壁とした場合は、柱が見え掛かりとなるので、一般に、柱材には化粧材を用いる。
- 30  外壁の窓として使用するサッシの性能は、日本工業規格(JIS)により、耐風圧性、気密性、水密性等について、それぞれ等級が定められている。

## 計画06各部設計

- 1 × 突出し窓は上枠に丁番を設置し、窓を屋外に突き出すもので、横長窓に適する。また、気密性・水密性にも優れている。
- 2 × 屋内テニスコートの天井高は、中央部分で12m以上必要である。
- 3 ○ コミュニティ施設の階段において、視覚障害者に配慮し、階段の手前30cm程度の床の上に点状ブロックを敷設する。
- 4 ○ 各階の階高が異なる場合でも、避難時に足を踏みはずさないよう蹴上げと踏面の寸法が各階でほぼ同じになるように計画する。
- 5 × バスケットボールコート1面の寸法は15m×28m以上必要で、2面で外周部分やコート間のスペースを考慮すると41m×35m以上必要である。
- 6 ○ はめ殺し窓は主に採光等を目的とし、気密性・水密性に優れているが、室内からのガラス外面の清掃が難しい。
- 7 × 事務室に設置するパーティションの高さは、いす作業目の高さより上で、視線から30°のグレアゾーンやディスプレイ画面を考慮し、120～140cm程度である。
- 8 ○ 陸上競技場の芝生席の斜面の勾配を1/6以下とすることで安定して座ることができる。
- 9 × システム天井工法は照明や空調を組み込んだ一層張りであり、捨て張りの上から岩綿吸音板を張った捨て張り工法のほうが遮音性能は高くなる。
- 10 × 廊下から附室への入口と附室から階段室への出口が隣接していると、滞留するスペースが少なくなり、スムーズな避難が難しくなる。
- 11 × 階段室の壁に取り付ける手すりの高さは、段の先端から測って80～85cm程度が適当である。
- 12 ○ 公共図書館における図書の貸出用のカウンターの床面からの高さは、子どもや車いす使用者に配慮して、70cmである。
- 13 × 耐熱強化ガラスは防火戸の構成部品として認定されており、急激な温度変化を加えても割れないよう強化したガラスのことです。
- 14 × 病院の病室の出入り口の有効幅は、ベッドの円滑移動を考慮した場合は、150cm以上が望ましい。
- 15 ○ 化粧室の洗面台の高さは75～80cmが適当である。
- 16 × 免震建築物は、大地震時に、免震層より上部の構造が水平に変位するため、建築物の周囲に可動範囲を確保する必要がある。建物の可動範囲にはいかなるものも置かない。
- 17 ○ 免震層の直上階に着床するエレベーターの配置については、そのピットが、免震装置の基礎に近接しないように注意する。
- 18 ○ ストレッチャーやベッド等が出入りできるよう、病室の出入口は有効幅120cm程度必要である。
- 19 ○ カーテンウォールのオープンジョイントとは、雨仕切、等圧用開口及び気密線を組み合わせることにより雨水の侵入を防止する方式のことである。
- 20 × バレーボールの試合を行う屋内スポーツ施設の天井の高さは7m以上必要、競技用では12.5m以上とされる。
- 21 × 横滑り出し窓は、常時は、少し開けて換気用として使うが、反転させることはできない。
- 22 × 事務所ビルの1階玄関ホールの受付カウンターは、立ったまま応対する場合でも、90～100cmが適当である。120cmでは高すぎる。
- 23 × シティホテルのフロントカウンターの高さは、一般用は100cm程度とし、車いす使用者は68cm～75cmとする。
- 24 ○ 美術館の常設展示室において、壁面展示の絵画を鑑賞する視距離は、一般に、画面の対角線の1.0～1.5倍とされる。
- 25 × 車路の両側に普通乗用車を駐車させる駐車場において、直角駐車よりも60°駐車のほうが、車路の幅を狭くできる。
- 26 × 6人制バレーボールの公式試合を行うコートは9m×18mであり、左右各5m・前後各8m以上スペースを2面確保するには、38m×34m必要である。
- 27 ○ 駐車スペース1台分の幅は2.5m程度であり、柱間に3台並列に駐車するには、柱型を考慮し8.5m程度必要である。
- 28 ○ 高層建築物の外壁に使用されるカーテンウォールには、建築物の軽量化、工場生産による品質の安定化、自由なファサードの形成等の利点がある。
- 29 × 大壁は、壁の仕上げ面を柱面より外側とし、柱を被覆するため、一般に、柱材に化粧材は用いない。
- 30 ○ 外壁の窓として使用するサッシの性能は、日本工業規格(JIS)により、耐風圧性、気密性、水密性等について、それぞれ等級が定められている。